

## 平成 30 年 12 月 27 日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。

市長、よろしく願いいたします。

### 【市長】

はい、明日は仕事納めですが、本当に記者クラブの皆さんには、今年も一年お世話になりました。ありがとうございました。最後の定例記者会見ですが、大寒波が来そうだということを耳にしていると思いますが、ぜひ太平洋側ですのでね、晴れは晴れだ、ということですけども、寒い日が続きますので、年末、記者の皆さんも忙しいと思いますが、健康には留意していただきたいと思います。

私も、大晦日は、例年通りなんですけれども、清水の日の出で、みなと祭りの実行委員会が主催の踊り納めと共に、花火大会をドーンとやらせてもらうカウントダウンをさせていただきますが、ぜひ「夢テラス」、ご存知のように大変好評です。大晦日の日は夜 10 時まで開けますので、「夢テラス」から大晦日、晴れだったらば、清水港から打ち上げられる花火、とっても綺麗に見えそうです。とりわけ独身の記者の方には、誰かを誘って行かれると、すごくロマンチックなムードになるんじゃないかなと期待をしておりますのでPRをさせていただきます。

それでは、今日の話題は、「これまでの 50 年を見つめ、これからの 50 年を見据える 安倍 6 村合併 50 周年を迎えて」というタイトルであります。

合併期日が、1月1日なんですよ、昭和 44 年です。本当に元旦を迎え満 50 年になります。

旧井川村、梅ヶ島村、大河内村、玉川村、大川村、清沢村と静岡市が合併しました。平成 31 年 1 月 1 日は 50 周年を迎える記念すべき日であります。

そこで、市民の皆さんに、是非この節目の年にもう一度それぞれの6つの村が持っている地域資源を知っていただきたい。そして 50 年の歩んできた歴史を知っていただきたい。つまり“故きを温めて新しきを知る”。よく私がまちづくりセッションの時に引用した徳川家達公が揮毫してくれて、市長室に掲げられている「彰往考来」ですね。今まで歩んできた道を振り返って検証することによって、初めて未来の行くべき道の指針が分かるという意味ですけども、“50 年の歴史を振り返り、未来を展望する”節目の年にしていきたいというふうに思っています。

そこで、一番、静岡市内で人通りの多い、おそらくお浅間さんに初詣をした市内外の方々が通るであろう JR静岡駅に続く北口の地下、コンコース。あそこの市の PR ブースである「しずチカ」でパネル展を行います。そこに、とっておきのオクシズの行ってみたいなあ、とインスタ映えするような、そんな風景の写真を展示します。

インドネシアのバリ島に行かなくても、フィリピンのセブ島に行かなくても、こりリゾートだよと。オクシズのこんな場所で、命の洗濯が十分できるんだよというような各地域の素晴らしい風景の写真パネ

ルを飾って、そして、オクシズの魅力、それに付設して、今までの歩んできた道なんかを解説するような、そんなパネル展をまずオープニングとして開催をしたいなというふうに思いますので、是非、取材をお願いいたします。それに続いて、記者の配布資料の中に入っていると思いますが、予定とカッコは付いてますけども、各地域の取り組みはこれですね。(資料提示) この記事、このとおりであります。それぞれ工夫をして、さまざまなイベント、事業をして、それぞれの地域に誘いたいと。多くの皆さんにオクシズ6村に来てもらいたいというような取り組みをしていく予定でありますので、取材方お願いを致します。

例えば、井川地域では、1月23日から2月1日まで市民ギャラリーで、これも「合併記念のパネル展」を開きますと。藁科川筋の大川地区、清沢地区では、1月27日に合同で「聖一国師生家のしだれ桜の植樹」を行うそうです。静岡茶の始祖である聖一国師の生家の清沢地区・柘沢で樹齢数百年といわれる「しだれ桜」から、地域の皆さんが丹精込めて作った苗木を、これは地域間交流として、仕掛けたわけでありますけれども、「おまち」の方の田町地区の田町公園と東千代田地区の川合山展望台広場の方に植樹をします。移植して植樹をすることです。市街地で植樹をすることによって、人と人との交流が生まれる。大川・清沢地域の魅力を発信するという目的の事業であります。このように、各地域それぞれで記念事業を展開していきますが、開催が近づきましたら順次、情報を提供いたしますので、よろしく願いいたします。オクシズには、合併前から引き継がれた豊かな自然景観や環境があり、市民生活を支える豊かな水を育む森林を守る人たちが暮らしています。

平成27年2月には、市議会の定例会において全会一致で可決された「オクシズ地域おこし条例」があります。そこに記載された基本理念にあるように、私たちはオクシズの現状や価値を知り、その重要性を理解し、オクシズを継続的に発展させていく責任があります。記念事業を主体的に進めていただいている各地域の市民の皆さんと連携をして、行政としても、この貴重な地域資源の宝庫であるオクシズを次の世代に継承していきたいと思っております。以上であります。

#### 【司会】

それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問のある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

#### 【市長】

最後ですし、何か質問してくださいよ。

#### 【司会】

はい、ありがとうございました。

それでは、次に幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さんお願いいたします。

【市長】

はい、お願いします。

【幹事社(静岡朝日テレビ)】

幹事社の朝日テレビです。よろしくお願いします。幹事社質問です。先日、市民文化会館の複合アリーナ構想について検討委員会で実現困難との見方が示されました。田辺市長は再三、建設への意欲を示していましたが、この件について今後どうなるのか、市長の考えを聞かせてください。また、JR東静岡駅前にアリーナを建設すべきとの意見も出ましたが、こちらはいかがでしょうか。以上です。

【市長】

大きく2つ質問を頂いたと理解しております。1つ目については、それぞれの専門家が集まって議論をして頂いた検討委員会ですから、その検討委員会の意見を十分に尊重していきたいというふうに思っております。実際、検討委員会を3回開催し、その回と回の間でも様々な担当部局の努力がありました。委員の皆さんによる専門的かつ多角的な見地から議論を進めていただく中で、敷地の制約であるとか、交通上の課題などが明らかになり、アーティストに選ばれる魅力あるアリーナを駿府町地区に整備することは難しいという意見でしたので、私としてはそれを十分尊重していきたいと思っております。それから、私自身が強調しているのは、これを官民連携で進めていかなければならないということです。公設公営で、全て税金で建設をして赤字になったら一般会計から補填をするという公共施設ではなかなか市政運営がままならない、そんな時代になっております。大規模投資であればあるほど、そのあたりは慎重にならなければいけない。そういう意味で、いかに民間資金を調達するのかということ、官民連携を進めていくのかということに、私はとても重きを置いております。その民間の事業者が駿府町のあの対象地域を私たちから提示して、どんなもんかなという風に精力的にヒアリングをかけたところ、あそこだと、その後の事業性をはじめ、なかなか民間資金を入れるのは難しいということであったと。運営面を心配する声があったということですので、そんな事業者の意見もやはり考慮しなければならないというふうに思っております。

今後、市内各地域、いろいろな可能性のある地域があるので、アリーナ建設をするという方向性は総合計画に盛り込まれていますので、引き続き、対象地域を絞らずに検討していきたいというふうに思っています。以上です。

【幹事社】

ありがとうございました。

【司会】

幹事社さん、よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、その他、各社さんからお願いします。

朝日新聞さん、どうぞ。

**【朝日新聞】**

今の質問なんですけど、要は結論的にですね、市民文化会館のあそこの地域にはアリーナを作らないということと理解してよろしいんでしょうか。

市民文化会館は、あくまでも建て替え一本のみと、そういうことで理解してよろしいんでしょうか。

**【市長】**

これは、検討委員会の意見を尊重するというを私は申し上げたのであって、これを市議会の方にも報告をして、もちろん市議会のご意見ということも聞かせていただくことも必要でありますので、そんなプロセスをこれから進めていきたいというふうに思っています。

**【朝日新聞】**

検討会というのは、何も決定権限ないわけですよ。あくまでも決定権を持っているのは市長ですよ。ですから聞いているわけです。どうするんですかということです。

**【市長】**

ところで、今日の自転車の記事はたいへん感激をしました。素晴らしい記事を書いていただいたなあというふうに思っております。私は競輪のイメージを変えていきたい。自転車のまち静岡だからこそ変えることができるという意味で、この歴史的な一冊の中で競輪が似合うまちにしていきたいなというふうに思いますので、記者の今日の記事、たいへん心強く、うれしく読ませていただきました。ご質問については、先ほど申し上げたとおりです。

**【朝日新聞】**

イエスカ、ノーかを求めているんですけど。

**【市長】**

先ほど申し上げたとおり、市議会の皆様のご意見も聴かせていただいてから、私が最終決断をしていきたいと思っています。

**【朝日新聞】**

わかりました。

**【司会】**

いかがでしょうか。はい、どうぞ。

**【読売新聞】**

静岡市が行っている資源ごみの回収、ペットボトルの回収についてお伺いします。

静岡市のペットボトルの回収量についてなんですけれども、政令市で比較したところ、昨年度で言えば2番目に低い岡山市の 25%程度にとどまっているということが、こちらの取材の方で明らかになりました。市としては、本日、配付資料をいただいていますようにSDGsの推進ですとか、市長自らも廃プラスチックの削減ということを掲げておりますが、この現状について市長としてどのように受け止めているのか。また、市として何か対策を考えているのか、お伺いします。

**【市長】**

おっしゃるとおりだというふうに思います。SDGs未来都市として、この問題は何とか解決に向けての努力をしていかなければならないというふうに思っています。

その皮切りとして、プラスチックストローのことに着目をして、環境局中心に市民への啓発事業をしたわけであります。ただし、分量的にはストローよりもペットボトルであるとか、あるいはコンビニ、スーパー等で配布されるレジ袋の方が、圧倒的に多いわけですよね。これをどう処理していくかということが、今後の課題になろうかというふうに思っています。

今日、環境局は誰か来ていますか…来ていない。ぜひ、そのあたりのところは強く、私の方からSDGsの目標に向けて、どうプラスチックごみを私たちの中で削減取組ができるのか、ということを示してありますので、是非、(環境)局の方への取材方もお願いしたいと思っています。

国もね、この環境基本計画の改定の中で、この問題、議論をしております。今回、COPが国よりも高い目標の中でいろいろな数値設定をしていますので、かなり国レベルでも、このことについて、もっと努力をしていくという必要性が出ていくのではないかな。もちろん海に囲まれた国でありますし、また、静岡市は清水港という海と共に発展してきたまちでありますので、やはり海洋資源を保全をしていく責任を持つ都市、あるいは国としてね、この問題を積極的に取り組んでいくという気持ちを持っているということ、ぜひご理解いただきたいと思います。以上です。

**【司会】**

読売(新聞)さん、どうぞ。

**【読売新聞】**

重ねてお伺いします。今後、どのように削減に取り組んでいけるか、指示をしていくということなんです。でも、そもそもなんですけれども、なぜ静岡市がこれほどまでペットボトルの回収量が少ないのか、それは市長として何か原因として分析されてるところありますでしょうか。

**【市長】**

今のところ、私はそのことについて申し上げることはありません。

あまり規制をしてこなかったということがあるんだらうというふうに思います。あの分別についても緩

やかでありますのでね、そのことも一つの要因なのかなと。これ、推測の域を出ませんけども、そんなところでもあります。

**【読売新聞】**

そうしますと、先ほど、どうプラスチックごみ削減に取り組むかの指示というのは、緩やかであった規制を、今後、見直し含めてしていくということなんでしょうか。

**【市長】**

そうことですね。市民の皆さんに定着をしている制度でありますので、このぐらいの方がいいよという声もあります。また、沼上も西ヶ谷も大変、高性能の清掃工場を持っておりますので、その処理能力の範囲の中で、今までやってきたということもあろうかと思えます。

ただ、それが CO2 の排出に繋がっているという、また別の見地からこのところも考えていかなきゃいけない。それは市民の負担を強いることになるかもしれない。そこら辺の啓発の部分も必要かと思えますので、早急にね、こうするべきだという事は、今は言えないと思えますが、しかし、方向性としてはそういうことだということをご理解頂きたいと思えますし、また、新聞記事の中でそんな啓発をしていただければ、大変ありがたいなと思えます。

**【司会】**

いかがでしょうか。

はい、産経新聞さん、どうぞ。

**【産経新聞】**

先日、子ども医療費に関して、県と政令市の協議が行われまして、そこで政令市さんの方がこれまで主張されてきた2分の1の補助率ですとか、恒久的な補助にはこだわらないという話をされたんですけども、市長としては県に対して、今後、最低限このくらいの期間は補助して欲しいですとかそういう要望はありますでしょうか。

**【市長】**

この前も申し上げましたとおり、一番優先するべきは浜松市との連携であります。二つの政令指定都市がきちっと一枚岩になって県との交渉を進めるということでもあります。

理念としてはね、政令市のみならず他の 33 市町も含めて、緊急アピールを今年度 33 市町、北村県市長会会長の名のもとにね、恒久的に2分の1であるべきだという声明を、緊急要望を発表しておりますので、理念としては、そうあるべきだというふうに思っています

ただ、現実の交渉として、まとめ上げなきゃいけないので、浜松(市)との連携を第一優先課題として県と是非合意に達してほしいなというふうに願っています。

**【司会】**

いかがでしょうか。はい、ありがとうございました。

それでは、質問の方は打ち切らせていただきます。会見は以上です。